

平成29年度教員免許状更新講習シラバス

講習の区分	【選択領域】受講者が任意に選択して受講する領域		
講習の名称	【選択】労働経済学		
開設日	平成29年10月7日(土)	講習時間	6時間
主な受講対象者	中・高教諭 (社会科、地理歴史科、公民科)	受講人数	50人
講習の形態	対面授業	会場	佐賀大学:教養教育1号館124教室
担当講師	平地 一郎、富田 義典		
講習のねらい・到達目標	人・物・金及び情報サービスを対象とする経済学の中にあつて、労働経済学は、人を対象とします。具体的には、雇用・賃金・労働時間であり、社会問題の中心をなすテーマということもできます。本講習では、これらを取り上げます。今日、「働き方改革」が日本社会の大きな課題となっていますが、労働経済学はそうした経済問題をどう分析し、また、どのような対策案があり得るのかを提示したい。それによって、社会問題を経済的に理解する際の方法の習得の一助として頂きたい。		
講習内容	(Ⅰ)経済学は失業をどう理論的に説明してきたのでしょうか。その理論的歴史を紹介し、雇用と賃金との関連そして今日の雇用政策の持つ意味を解説します。(Ⅱ)賃金の決定機構のあり方は、国によって違います。また、その現代の福祉国家システムは、そうした賃金決定システムと無関係ではありません。現代の福祉国家の有り様を労使関係制度の違いから解説します。(Ⅲ)最後に現代日本の労働時間問題から今日の雇用問題を解説し、今後の雇用政策・労働時間問題のあるべき対策を説明します。		
評価方法・基準	講義の最後に実施する筆記試験によって評価します。		
	認定試験 に関して	資料の持ち込み (可)	
講習計画/講習内容			
開始時刻等	担当講師	内容	補足
I 9:00~10:30 (90分)	平地 一郎	I 講 最初に、経済学は失業をどう理解してきたのかという理論的歴史を紹介します。その上で、今日の失業問題に焦点を当てて、雇用政策の現代的な意味を考えます。	
II 10:45~12:15 (90分)	平地 一郎	II 講 賃金の決定メカニズムについて労使関係制度の観点から解説します。その上で、賃金決定のあり方が、現代の福祉国家の社会的制度にどのような影響を与えているかを考えます。	
12:15~13:15	昼休み		
III 13:15~14:45 (90分)	富田 義典	III 講 労働時間問題に焦点を当てて、今日の雇用問題を考えます。とくに2000年前後からリーマンショック前後の変化に着目し、今後の雇用政策・労働時間問題の対策のあるべき方向を探ります。	
IV 15:00~16:30 (90分)	富田 義典	IV 講 III 講の続き。 講義の最後に筆記試験を実施します。	
持参するもの			
予習について			
受講上の注意			